

平成 26 年 11 月 23 日（日）施行

第 176 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. (借) 現金 (資産) の増加 (貸) 当座預金 (資産) の減少
2. 小切手での支払いは当座預金 (資産) を減少させる。
 (借) 仕入 (費用) の発生 (貸) 当座預金 (資産) の減少
3. 「概算で」とあるので、仮払金で処理する。
 (借) 仮払金 (資産) の増加 (貸) 現金 (資産) の減少
4. 商品の売上
 (借) 現金 (資産) の増加 (貸) 売上 (収益) の発生
 売掛金 (資産) の増加
5. 商品の仕入れではないので未払金 (負債) で処理する。買掛金と間違えないよう注意。
 (借) 備品 (資産) の増加 (貸) 未払金 (負債) の増加
6. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。
 (借) 給料 (費用) の発生 (貸) 従業員預り金 (負債) の増加
 現金 (資産) の減少
7. 割引料 ¥7,000 は額面額未満で銀行に売却したことによる売却損 (費用) として処理する。
 (借) 当座預金 (資産) の増加 (貸) 受取手形 (資産) の減少
 手形売却損 (費用) の発生
8. 取得原価 ¥2,600,000 の有価証券を ¥2,800,000 で売却したので、売却益 ¥200,000 (収益) が増加する。
 (借) 当座預金 (資産) の増加 (貸) 有価証券 (資産) の減少
 有価証券売却益 (収益) の発生

第 2 問

(1)

期首貸借対照表		損益計算書		期末貸借対照表		
資 産	負 債	総費用 31,500,000	総収益 (ウ)	資 産 50,000,000	負 債 32,500,000	
	期首純資産 (ア)				期首純資産 (ア)	期末純資産 (イ)
		当期純利益 600,000			当期純利益 600,000	

(イ) **期首資産 = 期首負債 + 期首純資産** の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{期末資産} - \text{期末負債} = \text{¥}50,000,000 - \text{¥}32,500,000 = \underline{\text{¥}17,500,000}$$

(ア) 当期中に直接的な資本 (純資産) の増加はないので、

期末純資産 = 期首純資産 + 当期純利益 の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{期末純資産} - \text{当期純利益} = \text{¥}17,500,000 - \text{¥}600,000 = \underline{\text{¥}16,900,000}$$

(ウ) **総収益－総費用＝当期純利益** の関係より

$$\text{総収益} = \text{総費用} + \text{当期純利益} = \text{¥}31,500,000 + \text{¥}600,000 = \underline{\text{¥}32,100,000}$$

(2)

仕 入			損益計算書	
期首商品	280,000	売上原価 (エ) 6,200,000	売上原価 (エ) 6,200,000	売上高 8,700,000
仕入高	6,250,000		売上総利益 (オ) 2,500,000	
		期末商品	330,000	

(ア) **売上原価＝期首商品棚卸高＋当期純仕入高－期末商品棚卸高** の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}280,000 + \text{¥}6,250,000 - \text{¥}330,000 = \underline{\text{¥}6,200,000}$$

(イ) **純売上高－売上原価＝売上総利益** の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}8,700,000 - \text{¥}6,200,000 = \underline{\text{¥}2,500,000}$$

第3問 省略

第4問

A 商品							
前月繰越	@ ¥2,000	50 個	¥100,000	@ ¥2,000	40 個	¥80,000	10 日売上
				@ ¥2,000	10 個	¥20,000	
8 日仕入	@ ¥2,100	20 個	¥42,000	@ ¥2,100	20 個	¥42,000	24 日売上
				@ ¥2,100	20 個	¥42,000	
17 日仕入	@ ¥2,100	100 個	¥210,000	@ ¥2,100	60 個	¥126,000	30 日売上
				@ ¥2,100	20 個	¥42,000	

(ア) 10 日売り上げの A 商品の単価は、図より @ ¥2,000

(イ) 9 月中の売上原価は

$$\text{¥}80,000 + \text{¥}20,000 + \text{¥}42,000 + \text{¥}42,000 + \text{¥}126,000 = \underline{\text{¥}310,000}$$

※ 払出単価の算定にあたっては、売価は関係ないので、計算を間違えないよう注意。

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より ¥290,000

(借) 仕 入	290,000	(貸) 繰越商品	290,000
繰越商品	370,000	仕 入	370,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は ¥700,000

$$¥700,000 \times 1.0\% = ¥7,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は ¥7,000 - ¥4,000 = ¥3,000

(借) 貸倒引当金繰入	3,000	(貸) 貸倒引当金	3,000
-------------	-------	-----------	-------

3. 減価償却費の計算

備品は当期首に購入しているので残高試算表残高が取得価額である。

備品の取得価額は ¥2,500,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥2,500,000 / 5 \text{年} = ¥500,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	500,000	(貸) 備 品	500,000
-----------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

¥1,000 を雑益（収益）として処理する。

(借) 現金過不足	1,000	(貸) 雑 益	1,000
-----------	-------	---------	-------

5. 引出金の処理

引出金の金額 ¥46,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	46,000	(貸) 引 出 金	46,000
-----------	--------	-----------	--------